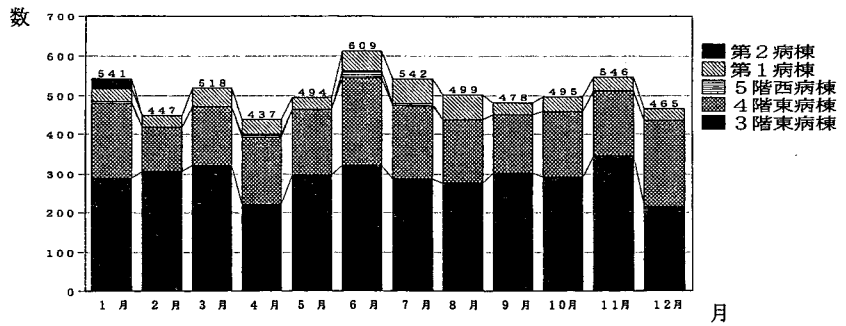


無菌製剤処理業務表

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
3階東病棟	287	305	321	220	296	320	286	276	300	290	343	215
4階東病棟	189	111	150	172	167	222	188	161	148	167	167	219
5階西病棟	6	0	0	8	0	17	6	0	0	0	1	0
第1病棟	33	31	47	37	31	50	62	62	30	38	35	31
第2病棟	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	541	447	518	437	494	609	542	499	478	495	546	465
診療報酬金額	216.4	178.8	207.2	174.8	197.6	243.6	216.8	199.6	191.2	198	218.4	186

※診療報酬金額 (単位: 千円)
(1件 400円)

	合 計
3階東病棟	3,459
4階東病棟	2,061
5階西病棟	38
第1病棟	487
第2病棟	26
総 計	6,071
診療報酬金額	2,428.4



無菌製剤処理業務数 (平成9年1～12月)

放射線科の現況と今後

放射線科技師長 堀 勇 二

新病院に移転し早5年半が経過しているが、放射線科の検査状況も年々変化を見せている。

全体的な検査人数、件数では平成6年度をピークに横道い状態となっているが、休日及び平日時間外での救急、緊急検査は年々増加の傾向であることは変わっていないようである。昨年 [平成9年度1月～12月] 1年間の状況を見てみると撮影人数47588名(前年比1.2%の増)、撮影件数57528件(前年比1.7%の増)、撮影枚数116832枚、(前年比1.7%の増)で前年比微増でほぼ同じ状況であ

る。しかし検査内容を見ていくと撮影比率の高い一般撮影で7.2%(5123件)の落ち込みとなっている。

特に整形外科での脊椎撮影11.8%の減、上肢・下肢撮影6.7%の減、内科・外科等での腹部撮影9.6%の減、件数的には少ないが小児科での胸部・腹部撮影17%～26%の減が主なものである。これらをカバーすべく増えてきているのが、CT検査18%の増、MRI検査18.3%の増、血管撮影36.7%の増である。全体的な検査人数、件数の数は同じ

ようであるが、仕事量的に見ていくと内容の濃い状況となっている。

又、FCR AC-3を平成6年6月に1台導入したが利用度が大変高くなってきている。当初は病棟撮影（ポータブル）を主として耳鼻科、小児科、脳外科等に限定して撮影をしてきたがCR撮影でのメリットが大きく、要望も多くなって画像処理が限界になってきた。このCR撮影では画像の良さもさることながら、デジタル加算料金（単純撮影750円、特殊撮影950円、造影撮影1200円）が認められている。ちなみに平成8年度10,618,700円、平成9年度13,622,250円の収益があり、病院運営に多少なりとも貢献をしているところである。このような事からもCR化をどのような形で進めていったら良いのか、導入施設の状況或いはメーカー側のシステムの組合せ等を聞かせてもらいながら検討してみた。現状の部分的CR化ではこれからの放射線業務にメリットは少なく、分散してしまうことで継続的な機器の構築ができなくなる。したがって3～5年先を見据へ一般撮影系の全面CR化を図っていくべきと病院長はじめ関係部局に説明を行いながら理解を求めているところである。

ここで、CR（画像情報を今までのアナログ画像からデジタル画像にすること）導入による効果として簡単に説明を記したい。

1. 画像情報が高精度で低濃度から高濃度の広い範囲で安定した画像が得られる。

このことにより

- 1) 鮮明で見やすい診断精度の高い画像が得られる。
- 2) 画像を再処理することができ、より見たい部位の画像が得られる。
- 3) 撮影者が変わっても再現性の高い画像が得られる。

2. 撮影者（技師）サイドから見ると撮影条件をある程度の幅を持って撮影することができる事と、撮影後すぐにモニターで確認することができ次の作業に入ることができる。

このことにより

- 1) 子供や老人、交通外傷等、呼吸動又は体動による動きのある患者さんの撮影が行いやすくなる。

- 2) 患者さんを待たず時間が短縮され次の撮影準備作業を進めることができる。

- 3) 作業効率が良くなるために患者さんとのコミュニケーションが取れるようになる。

- 4) 撮影ミスが減り再撮影が減少する。

3. フィルムサイズの統一化（B4サイズ、半切）と、患者名の登録により名前がハッキリと見え読み取りやすくなり各外来、病棟でのフィルム保管管理が容易になる。

4. 画像をデジタル化することによって、デジタル加算料金（1部位につき、単純撮影750円、造影撮影1200円、特殊撮影950円）が認められている。又機器の増設によってオプティカルディスク等で画像のファイル化を構築することができる。

以上のようにCR効果を期待することができ、平成10年度には、ぜひとも導入を目指していきたいと考えている。又人口の高齢化に伴い骨粗しょう症が問題になってきている。人口の高齢化が進み21世紀のはじめには国民の4人に1人が65歳以上という本格的な高齢社会を迎えようとしている。この高齢者の保健福祉を向上させるためには色々な保健福祉サービスの内容の充実が重要であるとされ平成7年度から骨粗しょう症検診を導入することを厚生省で進めてきている。昨年は骨塩定量検査は治験者（10名）をメインとして100名少々だったが、今年は相当数の伸びが見られるのではないかと予想している。

放射線部門の機器は年々技術の進歩と相俟って新製品が開発されている。

このような状況の中で機器の更新、更には新規導入にあたっては多くの情報の収集を行い何年か先を見越しての検討を進めていかなければならない。

これからも間違いの無い必要度の高い機器の選定をと考えている。